



※当時の旅人は草鞋を二日に一度、履き替えていたのでござるよ

ぬかただより



月日は百代の過客にして、行き交う年もまた旅人なり。松尾芭蕉作・『おくのほそ道』の序文です。芭蕉は弟子の曾良を連れて約二四〇〇kmを旅しました。ルートは江戸から岩手県の平泉、秋田県の象潟を経由して岐阜の大垣。当時東北への旅は街道の整備がされておらず、死をも覚悟して臨んだ一五〇日間の旅だったと記されています。額田図書館では今夏、『日本の古典を読むシリーズ』が入りました。中には『おくのほそ道』もあります。読書の秋、古典を読んで歴史の旅などいかがですか？

岡崎市立額田図書館
秋号 No. 48
2018年9月発行

・俳人、松尾芭蕉

俳句は季語を交えて五七五で表現する世界で最短の定型詩です。明治時代まで俳句という言葉はなく、俳諧という様式で万人に楽しまれていました。

江戸時代、松尾芭蕉によって自然の美しさを詠む作風が生まみ出され、言葉遊びだった俳諧は芸術にまで高められました。

旅人としての芭蕉の願いは二つ。良い草鞋を手に入れること(※)。野宿せず、きちんとした宿に泊まることでした。

・名前はバナナ

芭蕉の名前の由来は庭に植えてあったバナナの木です。家は芭蕉庵と名付けられ、三度転居と建て直しが行われました。

・先人の足跡を追って

『おくのほそ道』における芭蕉の旅の目的は西行法師など過去の偉人の足跡を巡る旅だったとされています。『夏草や 兵どもが夢の跡』は滅ぼされた藤原三代を思ったの歌でした。かつてこの地で栄華を誇った人がいた。けれど今は野原しか残っていない。

過去に目を向け、先人が見た景色を追体験すること。それが芭蕉にとつての旅であるように思えてなりません。

・旅の思い出、かけ廻る

芭蕉が旅を終えて五年後、『おくのほそ道』が執筆されました。同行した弟子の曾良が綴った『曾良日記』とは天気、日付、立ち寄った場所の順番などが違います。文学的に推敲を重ねた紀行小説が『おくのほそ道』です。

晩年に過去を思い返し、芭蕉は空想の旅に出ます。道中の句を思い返し、終わった旅路に思いを馳せたのでしょうか。

額田にもいる道祖神



おおだの森にも道祖神がいます。道祖神は村と村の境目に祀られており、旅の神様として信仰されています。『おくのほそ道』では、旅に出るよう松尾芭蕉を手招きしたと記されています。鬼沢公民館に車を止め、森を歩くこと一五分、木々に囲まれて、優しい顔で道行く人を見守っていました。

参考資料

- 『芭蕉はどんな旅をしたのか』 金森 敦子/著 915.5/カナ 晶文社
- 『松尾芭蕉』 高村 忠範/文・絵 289/マ 汐文社

・秋夜長 芭蕉を巡る 本の声



『芭蕉紀行』
嵐山 光三郎/著
B911.3/アラ
新潮文庫

芭蕉自身も句も風流なイメージにとどまらない。想像以上に複雑で、理解できそうでできない、正体のつかめない存在。



『他界』
金子 兜太/著
914.6/カネ 講談社
あまりに綺麗すぎるものは何か引っかけたり信用できない。芭蕉にはそれを感じていて、本当の人間性を隠しているのではと思わせる。

古典文学、あります

秋の夜長にじっくり古典文学を読んでみるのはいかがでしょうか。学生時代に読んだ時とは違う視点で、物語を見ることができるのではないかと思います。新しい発見や、意外な感想が生まれるかもしれません。ぜひ、ご利用ください。

『日本の古典をよむ』シリーズは9番の棚に並んでいます。

おはなし会のお知らせ

毎月第2土曜・第3木曜の朝 10:30~11:00 におはなし会（えほんの読み聞かせ）を開催しています。
※木曜は0.1.2歳のちいさいこ向けの絵本を読みます。

【秋の開催日】

9/8(土)、9/20(木)、10/13(土)、10/18(木)、11/10(土)、11/15(木)

赤ちゃん向け

『バナナおいしくな一れ』

矢野 アケミ／さく
大日本図書 E／ハ



バナナがおいしくなるじゅもんをしてるかな？ このじゅもんをとなえると…。あれっバナナがソーセージになっちゃった。もう1かいとなえると…。こんどはソフトクリームに。ふしぎなじゅもん。みんなもいっしょにとなえてみようよ！

小学生向け

『おくのほそ道』

松尾 芭蕉／文
齋藤 孝／編
ほるぷ出版 E／コ



ぼしょう
松尾芭蕉が旅をして感動した風景が絵本で楽しめちゃう。気に入った句があったら声に出して読んでみて。5・7・5のリズムに合わせて季節のこと、生きものが書かれているよ。いざ、絵本の旅にしゅっぱーつ！

YA向け

『超辛口先生の

赤ペン俳句教室』
夏井 いつき／著
朝日出版社 911.3／ナツ



なし
テレビでお馴染み、俳句の先生による俳句に親しんでもらうための一冊。一般的な“俳句の作り方”といった本とは違った視点で、楽しく俳句について学ぶことができます。俳句なんて…と思った方も、新たな発見があるかも！

秋の語源は、食物が満ちることから飽和する「飽く」がなまったとする説や、稲が熟する「熟らむ」から取られたとする説があるそうです。新図書館になって半年が過ぎました。開館した頃は空いていた書架も徐々に埋まり、棚に本が馴染んできたように感じられます。額田図書館では毎週、十数冊の本が新しく入ります。新着図書コーナーに並びますので、ぜひチェックしてみてくださいね。

岡崎市立額田図書館 榎山町字山ノ神 21 番地 1 Tel.82-2953

【開館時間】9:00~19:00 【休館日】月曜日 ※祝日の場合は開館、翌日以降の平日に休館